

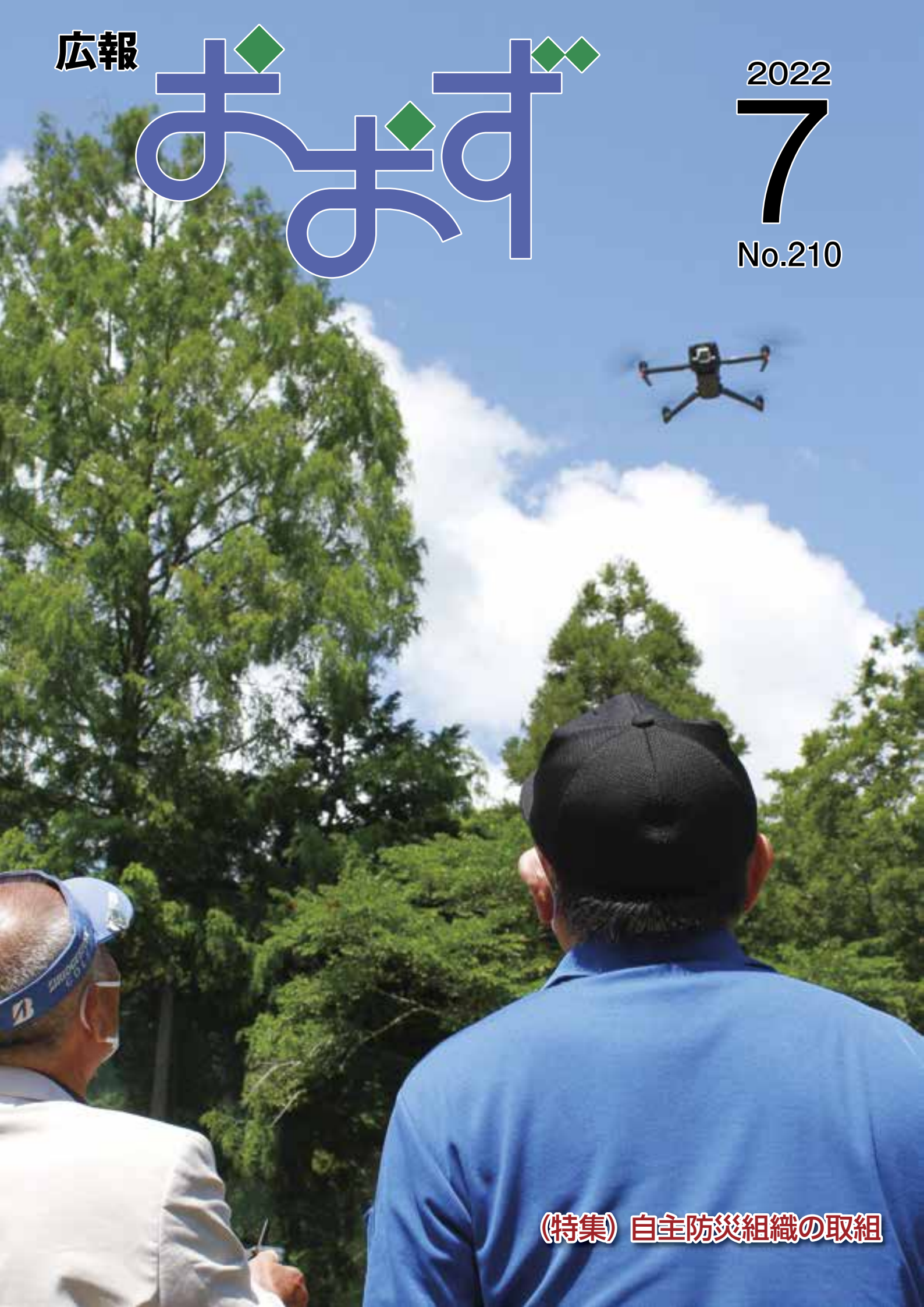
広報

おやすみ

2022

7

No.210



(特集) 自主防災組織の取組



二宮市政2期目がスタート

再選を果たした二宮^{たかひさ}隆久市長が5月20日金、2期目として当選後、初登庁しました。

二期目就任ご挨拶

幸せを実感できる「ウェルビーイング」なまちを目指して

5月8日に告示された大洲市長選挙において、引き続き市政2期目の重責を担わせていただくことになりました。これからも、大洲市の発展のため全力で市政に取り組んでまいります。

皆様からお寄せいただきました信頼と期待にお応えするため、私がこれまで、まちづくりの基本姿勢として掲げてきた4つの「C」に、市民の皆様と手を取り合っ
て新たな価値を創造していくという意味の「コ・クリエーション（共創）」のCを加えた「5つのC」をまちづくりの基本姿勢として、将来にわたって持続可能で魅力あふれる大洲市づくりに取り組んでまいります。

一昨年来のコロナ禍の影響により社会情勢が変化する中で、人口減少、少子化が進み、超高齢社会が到来し、大洲市政の運営においては、子育て支援の充実や地域医療の確保、地域公共交通の整備、老朽化したインフラの長寿命化対策などに加えて、“待ったなし”の新型コロナウイルスへの対応や、コロナ禍で疲弊した地域経済の再生、災害からの復興や肱川緊急治水対策、激特事業、防災・減災対策、デジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進、市民文化会館などの大規模施設の建設など継続すべき課題が多くございます。

このような中、大洲市の将来を考えたとき、ふるさと大洲で夢や希望を叶えることができ、まずは市民の皆様が健やかに安心して生活できる環境を整備し、移住先や訪問先としても選んでいただける、そして若い皆さんが「大洲市出身です！」と胸を張って言えるような、夢と誇りを持てる活力あるまちづくりを進めていくために、5つの柱をまちづくりの目標として掲げ、その実現にまい進したいと考えています。



復旧・復興と安全安心のまちづくり

平成30年7月豪雨災害からの復興に向けて、生活基盤と経済・産業の再生、肱川地区の複合公共施設の整備や大川地区の復興まちづくり、肱川緊急治水対策事業の推進、防災・減災のさらなる向上に努めてまいります。

引き続き、山鳥坂ダム建設や肱川水系河川整備計画、築堤・河道整備を推進し、激甚化・頻発化する自然災害に対応できるよう流域治水の推進や内水対策への取組、消防団や自主防災組織など地域防災力の強化など防災・減災対策の充実に取り組み、復興事業を計画的に進めて、市民の皆様と共に1日も早く復興を成し遂げて、災害に強いまちづくりを着実に進めてまいります。

また、松山自動車道（大洲IC－松山IC間）の早期全線4車線化の促進や、大洲・八幡浜自動車道の早期完成をより一層働きかけるとともに、国道56号の渋滞緩和、デマンド交通など地域公共交通の整備に取り組んでまいります。

活力あるまちづくり

コロナ禍で、働き方改革が進むこの機会に、大洲市の豊かな自然、歴史・文化、食や営みなどの魅力を発信して、「大洲のファン」を増やすため、旅行先で働きながら休暇を過ごすワーケーションを受け入れる体制の整備や、サテライトオフィスの誘致など、交流人口や関係人口の増加を図ってまいります。

また、引き続き「歴史的資源を活用した観光まちづくり」を推進するとともに、アフターコロナを見据えたインバウンド対策の充実やシティプロモーションの促進を図り、多様化する観光客のニーズにあわせたプログラムの開発と提供に努めてまいります。

さらに、基幹産業である農林水産業の振興を図るため、農林水産物や特産品の付加価値を高め、「おおずブランド」を確立することで農林水産業で働く方々の所得増を目指すとともに、森林環境譲与税の有効運用により、森林整備や森林資源を活用した取組を促進してまいります。

健やかに暮らせるまちづくり

高齢化が進む中では、市民の皆様が生涯にわたり元気に活躍いただくことが地域活力の源になります。そのため、健康づくりと健康寿命を延ばしていく施策を充実させることで、誰もが生きがいを持って、健康で自分らしく、笑顔で安全に暮らしていくことができる環境づくりを行います。

また、地域医療体制の確保や地域福祉の充実を図るとともに、大洲市の将来を担う子供たちを安心して育てる環境を整えていくため、認定こども園の設置や保育・子育てサービスの充実、さらには、高校生までの子ども医療費の無償化を目指すなど、子育て支援施策を拡充いたします。

そして、高齢者や障がいのある方にとっても住みやすく優しいまちづくりを推進いたします。相談体制の充実を図るとともに、出かける場所や交流行事などの創出と情報提供を行うことで、「今日の用事（キョウヨウ）」と「今日行く所（キョウイク）」を大切にしたい、誰もが生涯にわたって安心して健やかに暮らせるまちづくりに取り組んでまいります。

誇れる郷土のまちづくり

大洲市の将来を担う子供たちがふるさと大洲を誇りに思い、将来に夢と希望を持てる大洲らしさのある教育を進めるとともに、郷土を愛する心を育み、世界で活躍できるグローバルな視野を持った人材の育成に注力してまいります。

また、清流肱川をはじめとした豊かな自然の保全や、環境の美化に努め、「肱川かわまちづくり計画」の推進により、人が集い、自然と文化に触れ合える水辺空間を整え、緑豊かな肱川の風景と育まれた文化、流域で息づく営みを未来へとつなげ、肱川の魅力を最大限に活用した大洲らしさのあるオンリーワンのまちづくりを進めてまいります。

さらに、新しい市民文化会館の建設を促進し、魅力ある施設整備に向けて取組を進めます。

住み続けたいまちづくり

ウィズコロナ、アフターコロナ時代に対応できる新しい生活様式を見据えた取組を進めることとし、新たな日常の原動力となるDX推進計画を推進します。デジタルも活用した市民生活の利便性の向上や地域経済の活性化を図り、さらには行政の業務改革や改善を行うなど効率化を進めてまいります。

さらに、子育て世帯が定住しやすい環境を備え、空き家対策、移住先としての魅力度アップなど、移住・定住施策の推進に取り組み、次の世代においても住み続けたいと思えるような「住んでよし」「訪れてよし」のまちづくりを進めてまいります。

公約に掲げました5つのCをまちづくりの基本として、市民の皆様と共に力を合わせ、「チームおおず」で災害からの復旧・復興を成し遂げるとともに、SDGsの推進で、市民の皆様が幸せを実感できる「ウェルビーイング」なまちとなるよう、全力で取り組んでまいります。

今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

大洲市長 二宮 隆久

(特集) 自主防災組織の取組



災害の被害を最小限にとどめるためには、自助（個人）、共助（地域）、公助（行政）の3つそれぞれが連携していくことが大事です。

その3つのうちの共助を担うのが、みなさんの地域で結成されている自主防災組織です。

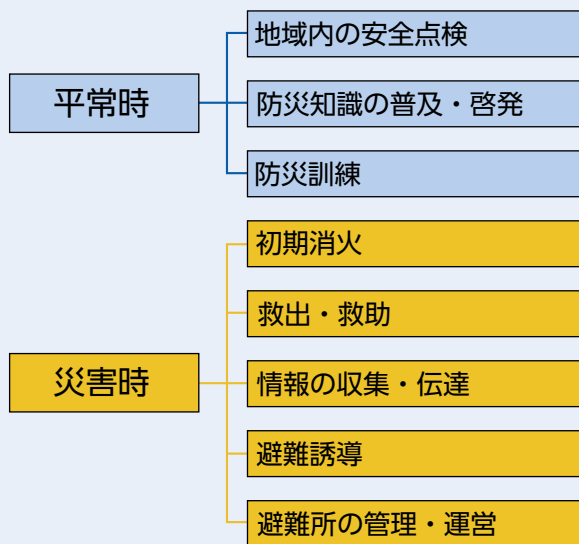
今回は自主防災組織の役割と取り組みについてご紹介したいと思います。

自主防災組織の役割

平常時には、大規模な災害が発生した際に地域の住民が的確に判断し行動できるよう、防災知識の普及・啓発や防災訓練などを実施し、災害に対する備えを行います。

災害時には、住民の避難誘導や避難所の管理・運営を行うなどの重要な役割を担っており、住民一人ひとりが「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識のもとで日頃の訓練や啓発活動に参加してもらい、地域の防災力を高める必要があります。

大洲市では33の対象地区全てで自主防災組織が結成されていますが、その中でも独自の取り組みをおこなってきた三善、柳沢、大川の3地区を取材しました。



各自主防災組織での訓練などの様子



みんなで作くりあげた防災カードが地域を救う（三善地区）



早くから災害・避難カード（防災カード）を自主防災に取り入れ、その成果により令和2年には「防災まちづくり大賞 総務大臣賞」を受賞した三善地区。その取り組みを窪田自治会長、祖母井自主防災本部長に聞きました。

三善地区は昔から水害の多い地域でした。それ故に住民の防災意識が高く、自主防災組織の立ち上げも早くから取り組むことができました。そのような中、「災害・避難カード」の存在を知り、三善地区は平成28年度から導入に取り組みました。カードの作成には地域住民のみなさんが地区ごとのグループに分かれてワークショップを開催し、意見を交えながら時間をかけて自らの手で作り上げることで、当事者意識を高めることや、より正確な危険箇所の共有に成功しました。

リーフレット版には「気にかける人」の欄を設け、被災時の要支援者を把握し「顔の見える関係」の構築にも努めました。図らずも作成・配布が完了した翌年に平成30年7月豪雨による大水害が発生しましたが、住民みんなが協力しながら安全に避難することができました。

また、備蓄食料も市から提供されているものに加え、5年間のサイクルで合計150食を保存していたことも役に立ちました。

今後は市が進めているDX（デジタルトランスフォーメーション）による防災・減災へのデジタル機器や情報の活用も検討しながら、より良い自主防災組織にしていきたいと考えています。



窪田 亀一 自治会長



祖母井 玄 自主防災本部長

三善地区「災害・避難カード」(上段はリーフレット版)

大洲市 三善地区「災害・避難カード」表

「災害・避難カード」-わたしの情報		家族（頼りになる人）の緊急連絡先	
ふりがな	名前	氏名	連絡先（職場・携帯など）
性別	血液型		
生年月日			
住所			
電話番号			
留意事項	持病、飲んでいる薬など		
避難時は、このカードを持って行く！		電話が つながらないときは、 171 （災害用伝言ダイヤル）	
		※音声説明あり	
		自分の居場所を伝える 録音「1」	家族の居場所を調べる 再生「2」



ワークショップの様子

ドローンが地域防災の新しい担い手に (柳沢地区)



「柳沢地区がドローンを購入した」との噂を耳にし、連絡してみると操作の練習をおこなうとのこと。さっそくフライトに立ち会ってきました。

柳沢地区自主防災組織がドローンの購入を考えたのは、やはり平成30年7月豪雨が契機でした。柳沢地区では土砂災害により道路が寸断され孤立状態になり、どこがどうなっているかも分かりませんでした。今後、いつあのような災害が発生するかわかりません。そこで思いついたのがドローンの導入でした。ドローンにはカメラが搭載されているため、上空から地区を一望する画像が送られてきます。気になるが危険で近づけないような場所にも接近し撮影することができます。これを活用すれば、過疎高齢化が進むこの地区でも自主防災活動が活性化できるのではないかと考えました。

柳沢地区は山間部で面積が広く、急傾斜地崩壊危険箇所が多い地域です。崩壊危険箇所を住民のみなさんに説明する場合、地図だけではいまひとつ実感がわかない人もいます。そこでドローンで撮影した映像や画像を利用すれば理解度も深まるはずと考えています。また、防災の面だけではなく、柳沢の景色をドローンで撮影し、今までとは違う視点の画像や動画をつくることで、地域おこしにも活用ができないかと考えており、地域の新しい力として活躍を期待しています。



徳田 登子夫 自治会長



ドローン：リモコン等で飛行できる航空機の総称。一般的にはカメラを搭載した空撮用のドローンがよく知られる。

①・② 自治会長らによる操縦訓練の様子。自動で飛び立った場所に戻ってくる機能もある。

③～⑥ ドローンから撮影した画像。高さだけではなく③のように近づくことのできない道路壁面の調査にも使える。



分散備蓄で有事に備える (大川地区)



左：成集会所に保管されている備蓄食料。食料は購入時期ごとに管理されている。

上：平成30年7月豪雨で被災し、再建を進めている大成橋は完成が間近となっている。(令和4年4月28日撮影)

大川地区は肱川を挟んで両側に地域が広がります。連絡所には市からの備蓄食料があるものの、災害時には道路や橋が使えなくなり、食料を受け取りに行くのが困難になる地域が出てくるのではとの懸念が以前からありました。そこで集会所にも食料を分散させようと考え、まず地区を7つのゾーンに分け、そのゾーンの中で土砂崩れなどに巻き込まれる危険性の少ない集会所を選別して保管先としました。備蓄食料は段階的に増やし、最終的には全体で1,350食(150人×3日分)を確保していく予定です。

また、大川地区は防災士の育成にも力を入れようと、資格取得に伴う旅費等の助成を始めました。研修などで得た知識や技術を地域に還元してもらい、地区全体の防災力を向上させていこうと考えています。



災害時の対応について話し合う、西山忠彦 自治会長(左)と中川一夫 自主防災組織会長(右)



一防災教育の充実を一

大洲市自主防災組織連絡協議会
とうかわ ふくみつ
當川 幅光 会長

自主防災の基本は自分の身は自分で守る「自助」です。普段から各家庭で家具の固定や、最低3日分の非常食を備蓄し災害に備えることが大事です。

そして、地域をみんなで守るという考えの「共助」が自主防災組織の理念です。この自主防災組織の大事な活動の一つに「防災教育」があります。災害が発生した場合、時には子供であっても自分自身で行動することが必要な場面があります。その時に必要な自分を守る力を身につけるため、幼い頃から学校だけではなく地域においても防災についての学習機会をこれから増やしていくことが大事だと思い、連絡協議会としても防災キャンプなどを実施してみようと考えています。

また、大洲市でも防災士の資格を持つ人が増えてきています。自主防災組織と防災士が地域防災の中心となり、力を合わせて地域の課題に取り組んでもらえればと思います。

非常用持ち出し袋を準備しましょう

災害発生時には電気や水道などのライフラインが停止し、普段通りの生活ができなくなります。非常時に持ち出すものをあらかじめ準備し、いつでもすぐに持ち出せるようにしておきましょう。

【非常用持ち出し袋の内容例 (人数分用意しましょう)】



- ▷ 飲料水、食糧品(3日分)
- ▷ 救急用品(絆創膏、包帯、常備薬など)
- ▷ ヘルメット、防災ずきん、マスク、軍手
- ▷ 懐中電灯、携帯ラジオ、携帯電話の充電器
- ▷ 衣類、下着、毛布、タオル
- ▷ 洗面用具、使い捨てカイロ、ウェットティッシュ、携帯トイレ

※乳児のいる家庭は、ミルク・紙おむつ・ほ乳びんなども用意しておきましょう。

参考：首相官邸資料